

人権理事会 人種主義・人種差別・外国人排斥を討議

2022/10/04

国連人権高等弁務官事務所

人権理事会では人種主義・人種差別・外国人排斥等に関する一般討論が行われた。多くの発言者が、ダーバン宣言・行動計画は今なお人種主義・人種差別と闘うために絶対必要なツールであると述べた。また、特に構造的な人種主義が存続する先進国が奴隷制の犠牲者に対する歴史的責任を回避する傾向にあるとの懸念が示された。さらに、法執行官による人種主義・暴力は、奴隷制の遺産や植民地主義の歴史を有する国で見られる慢性的・制度的・構造的な人種主義、社会的不平等の問題であるとの指摘もあった。加えて、関係国は人種主義・人種差別の重大な問題を認めること、差別的な政策を総合的に改正すること、法執行・司法機関を徹底的に見直すこと、暴力の加害者の責任追求と犠牲者への補償のために各事案を徹底的に調査することを求める発言、各国は人種主義・不寛容の問題に対して、犠牲者重視のアプローチをとるべきであるとの主張もあった。